

牧畜文化解析によるアフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明と その現代的動態の研究

Historico-Ecological Studies of
Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations and their
Modern Changes from the View Point of Pastoralism

嶋田 義仁 (SHIMADA YOSHIHITO)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授



研究の概要

旧大陸中央部にはサハラから中東を経てモンゴルに至る内陸乾燥地域が横わたる。ここに成立した文明を「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明」と呼び、人類文明史の揺籃・成長期を形成した文明として考察する。その原動力として牧畜文化に注目。牧畜文化の地域毎の固有性に注目して、この文明を4類型にわけ、その多様な内的構造と歴史動態の解明をおこなう。

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：アフロ・ユーラシア内陸乾燥地域、文明、牧畜文化、交易、都市・国家

1. 研究開始当初の背景

アフロ・ユーラシア旧大陸中央部には巨大な乾燥地域が横たわる。現在は紛争と貧困の地域であるが、人類文明の揺籃・発展地域であった。しかるにこの文明の研究が著しく遅れていた。イスラーム文明の研究は近年さかんになったが、この地域の文明形成はさらにふるく、モンゴルなど非イスラーム文明圏も広がる。灌漑文明論も乾燥地文明全域の説明としては限界がある。かかる限界を克服する新たな視点として、乾燥地域特有の生活文化、とりわけ牧畜文化に注目するに至った。

2. 研究の目的

アフロ・ユーラシア内陸乾燥地域に成立した文明を、「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明」と呼び、その構造と歴史的展開を、特に牧畜文化の観点から分析し、人類文明史の再構築をはかる。乾燥地文明理解の方法としては、灌漑文明が注目されやすいが、広大な乾燥地域にとって河川・オアシス灌漑は点と線の文化にすぎない。乾燥地域には穀物農業があり、牧畜文化もある。本研究では、家畜文化に注目した文明論の構築をこころみる。

3. 研究の方法

第1に、牧畜文化の文明形成力を、**物資・人・情報の移動・運搬能力**と、**軍事能力**に求める。前者は、長距離商業経済と都市文化発展の基礎であり、後者は帝国形成の基礎であるからだ。この2手段により、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地域を舞台に、遠く離れて位

置した地域と民族の大交流がはじまった。

第2に、アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の地域的多様性の強さに注目、この地域的多様性を各地域の牧畜文化の固有性に応じて4類型に分類し、各類型の特性を分担研究によって明らかにする。その類型と各類型の特性は以下の如し。

冷帯草原型乾燥地文化研究：モンゴル・トルコ系民族による馬中心の巨大帝国文明。**熱帯砂漠型乾燥地文化研究**：アラブ・ベルベル系民族によるラクダ中心のイスラーム商業文明。**熱帯サヴァンナ型乾燥地文化研究**：アフリカ・サヴァンナ系民族によるウシ中心イスラーム地域商業と地域帝国文明。**山地オアシス型乾燥地文化**：イラン・アフガニスタン・西域のヤギ・ヒツジ中心のイスラーム工芸・商業文明。これに、**乾燥地家畜文化の生態学的基礎と通文化研究班**を加える。

第3に、国際シンポジウム開催や国際学会参加をつうじて、研究内容と成果を国際学会に公表して国際共同研究を推進するとともに、博士課程大学院生や外国人研究者を研究協力者として、研究の充実と展開をはかる。

4. これまでの成果

・**乾燥地文化の生態学的基礎と通文化的研究**
2009年昆明開催の国際人類学会で、嶋田以下13名によるパネル発表「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明」。Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations, vol.1として発刊。エジプトのDesert Technology国際会議で嶋田、中村、縄田、児玉発表。第二回Oxford Desert

Conference で嶋田、今村、星野、児玉発表。
乾燥地文明論の展開は、嶋田「『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の4類型—乾燥地域の人類文明的考察』と、池谷編著『地球環境史からの問い』(嶋田「砂漠が育んだ文明—アフロ・ユーラシアの乾燥地」、縄田論文も所収)で、おこなわれた。また池谷が世界の家畜文化論を、平田が乳文化論を学術誌に連載している(各12回)。

・冷帯草原型乾燥地文化研究成果

モンゴル牧畜民の近現代史論(ブレンサイン)、社会主義時代論(楊海英)が出版され、楊の『墓標なき草原』上下は第14回司馬遼太郎賞受賞。児玉の改革開放時代の牧畜民定着化研究もあり、モンゴル牧畜民の社会史研究が充実した。研究協力者楊紅の『現代満州族のシャーマニズム』も、基層宗教文化の実態研究として画期的である。嶋田も『シャーマニズムの諸相』を編纂し(今村、中村、楊寄稿)シャーマニズムの国際比較をおこなうとともに、モンゴル・アカデミー刊行誌にアフロ・ユーラシア乾燥地文明論を寄稿。

・熱帯砂漠型乾燥地文化研究

縄田、中村、石山、今村によりラクダ文化の解明がすすんだ。今村はサハラ牧畜民ツアレグの家畜管理や家畜カテゴリーの解明をおこなうとともに、『砂漠の女』(どうぶつ社)で、カラハリ狩猟採集民の女性生活を論じた。

・熱帯サヴァンナ型乾燥地文化研究

嶋田『黒アフリカ・イスラーム文明論』が、サハラ南縁黒アフリカ・イスラーム文明の形成の歴史・風土的構造を、ラクダによるサハラ交易とサヴァンナのウシ牧畜民の国家形成運動の2重の視点からあきらかにした。

・山地オアシス型乾燥地文化

鷹木の「『チュニジアのオアシス地帯—伝統的ナツメヤシ文化の変容・保存・創造』と研究協力者水谷の『キブツ・サマル』によって、ナツメヤシ・オアシス文化研究がすすんだ。縄田、中村、石山はイラン開催のカナート会議に参加研究発表をおこなった。

5. 今後の計画

・5研究班を中心に、本研究を10巻ほどの論集にする(可能なら商業出版)。『モンゴル文明論』『サハラ文明論』『オアシス文明論』『サーヘル・スーダン文明論』『インド洋文明論』『世界の家畜文化』『乳文化論』『糞文化論』『アフロ・ユーラシアの宗教文化—イスラーム、仏教、キリスト教、ユダヤ教』等。

・こうした研究計画に従って個別研究を推進するとともに、国際会議を主催あるいは共催して、本プロジェクトに不足していた分析視点や研究を補いつつ、本研究を国際共同研究として展開し、その成果は『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究』や『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明研究叢書』に集積する。

24年10月にはインディアナ大学で共同国際セミナー開催の予定。12月にはマリのバマコ大学でも国際セミナーが予定されている。

6. これまでの発表論文等(受賞等も含む)
SHIMADA, Yoshihito 2012 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations, *Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilization* 1, 1-8.(査読)

SHIMADA, Yoshihito 2011 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations' point of view on Mongol and Japan, *Mongolia-Japan in the Past and the Present*, ed. by D.Shurkhuu et al. pp.110-118. (査読)

嶋田義仁2010『黒アフリカ・イスラーム文明論』創成社、352p。

嶋田義仁2010「アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明の4類型—乾燥地域の人類文明的考察」『文化人類学』74-4:585-612。(査読)

今村薫2012「ラクダ遊牧民トゥアレグの家畜管理」『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』Vol.3、33-44頁。(査読)

今村薫2012「トゥアレグの家畜の分類名称体系」『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』Vol.3、45-55頁。(査読)

今村薫2010『砂漠に生きる女たち—カラハリ狩猟採集民の日常と儀礼』どうぶつ社。

楊海英2011『続 墓標なき草原—内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』、336頁、岩波書店

楊海英2009『墓標なき草原—内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』、(上巻276頁、下巻290頁)岩波書店。(第十四回司馬遼太郎賞受賞)

NAKAMURA, Ryo 2011 Multi-ethnic Coexistence in Kilwa Island, Tanzania, *SHIMA: The International Journal of Research into Island Cultures* 5(1): 44-68. (査読)

鷹木恵子2012「チュニジアの伝統的ナツメヤシ文化—その変容と保存と新たな創造」『アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明』3: 1-32. (査読)

平田昌弘2011「モンゴル高原中央部における家畜群のコントロール—家畜群を近くに留める技法—」『文化人類学』76(2): 182-195. (査読)

池谷和信2010「変わりつつある牧畜民の暮らしと資源利用」篠田雅人・門村浩・山下博樹編『乾燥地科学シリーズ4 乾燥地の資源とその利用・保全』、29-46頁、古今書院。(査読)

ボルジギン・ブレンサイン 2011「近現代におけるモンゴル社会の構造変動と社会史の可能性」、モンゴル研究所編・吉田順一監修『モンゴル史研究：現状と展望』pp. 362-377. (査読)

ホームページ等

<http://afroasia.lit.nagoya-u.ac.jp/dryland/index.html>